

【R5年度】重点目標の取組・概要（特別支援教育支援員等の拡充[特別支援教育事業]）

担当課（内線）	人権教育課・5633	重点目標の方向性	子どもの保育・教育環境の向上
重点目標	子育てしやすい岸和田の実現	行政の役割	データを活用するなど、子ども一人ひとりにきめ細やかな指導を行い、基礎学力の向上を図る

現状と課題

【現状】

- ・小中学校に特別支援教育支援員を配置（R4…55名）
- ・重度（重複）障がいのある児童生徒の在籍する学校に介助員を配置（R4…4名）
- ・東光小学校及び岸城中学校に学校看護師配置（2名）
- ・個別の教育支援計画（あゆみファイル）の作成人数
R4…小・1,478人（1,329人）、中・586人（403人）
※（ ）内はR1
（上記作成児童生徒数のうち、約50%が通常の学級在籍）

【課題】

- ・インクルーシブ教育推進のための合理的配慮の充実
- ・子どもたち一人ひとりの状況を踏まえた支援を行うことが必須
- ・教職員の多忙化の軽減

R5年度の事業費（内訳）

特別支援教育支援員・介助員・学校看護師（会計年度任用職員）の配置
（計66人） 146,025千円

- ・人件費…143,817千円
- ・旅費…2,208千円

R6年度以降の想定事業費（ランニング経費）

R6…147,032千円
R7…156,399千円
R8…165,660千円

課題に対する取組の内容（めざす成果・期間・対象者・手法など）

【中期的(4～5年後)にめざす成果】

- ・全ての小中学校に、必要となる特別支援教育支援員を配置し、通常学級における支援の充実を図る

【成果に向けての各年度の進め方】

特別支援教育支援員及び介助員を経年で増加

- ・R4 支援員…55人、介助員…4人
- ・R5 支援員…55人、介助員…9人
- ・R6 支援員…66人、介助員…9人
- ・R7 支援員…71人、介助員…9人
- ・R8 支援員…71人、介助員…9人

※人材確保策としては、市広報やホームページ、ハローワーク、退職教員への依頼など

【R5年度の取組内容（期間・対象者・手法など）】

- 特別支援教育支援員（教員免許所有者）
 - ・通常学級において配慮の必要な児童生徒へのサポート
- 特別支援教育支援員（臨床心理士資格等の専門枠）
 - ・教員免許所有者の業務内容に加え、専門性を生かし、以下を実践
発達検査の実施、ケース会議への参加、保護者面談、
教員の相談対応、校内研修講師 など
- 介助員
 - ・支援学級に在籍する児童生徒に対し、生活自立や安全確保の支援

取組の進捗・成果を測る指標

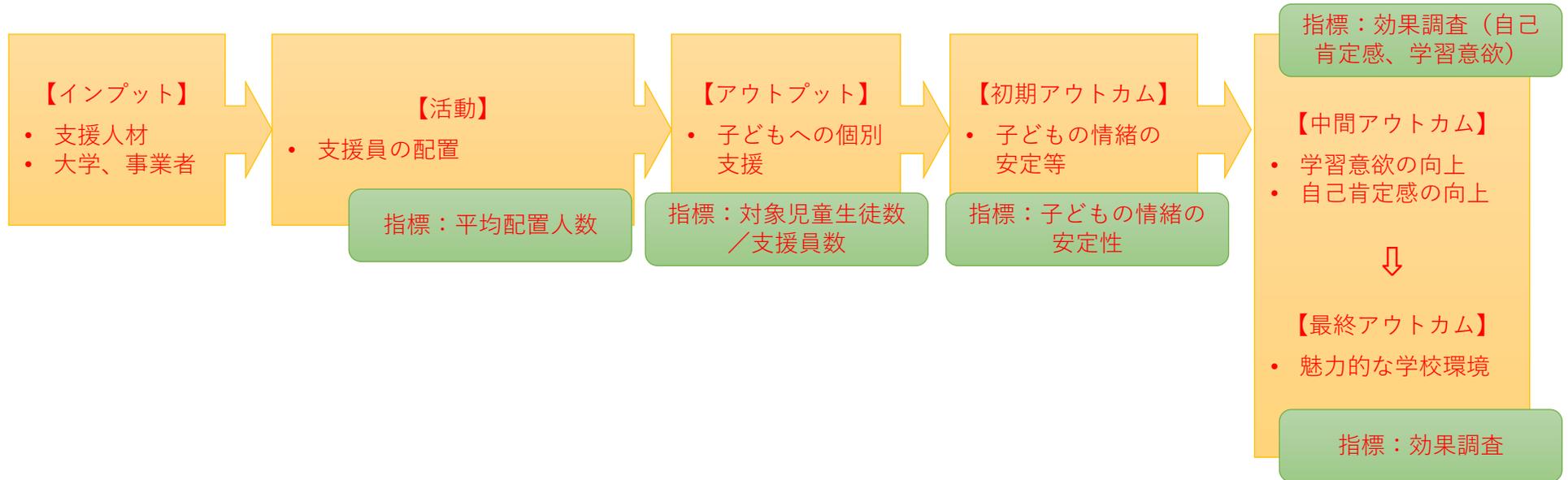
- ・配置校に対し、年度末に「配置効果調査」を実施。
→「配置効果あり」の回答が100%
- ・配置の効果に関する肯定的な回答数を指標とする。

成果・指標が未達成の場合の取扱い

- ・（R6）前年度を踏まえて改善
- ・（R7）前年度を踏まえて改善
- ・（R8）前年度を踏まえて改善
- ・（R9）前年度を踏まえて改善

【R5年度】重点目標の取組・ロジックモデル（特別支援教育支援員等の拡充[特別支援教育事業]）

ロジックモデル【事業立案時点】



その他（財源、他団体の状況、行政サービスとしての適正性について など）

○障がいのある児童生徒に対する市単費の人的支援状況

※（ ）内は1校平均配置人数順（岸和田市は東光小学校・岸城中学校に配置している介助員13名含む）

泉佐野市…98名（5.4人）	貝塚市…57名（3.6人）	
阪南市…36名（2.8人）	泉南市…33名（2.4人）	
和泉市…72名（2.3人）	府域…（2.2人）	岸和田市…72名（2.0人）

【R5年度】重点目標の取組・評価シート①（特別支援教育支援員等の拡充）

担当課（内線）	人権教育課・5633	重点目標の方向性	子どもの保育・教育環境の向上
重点目標	子育てしやすい岸和田の実現	行政の役割	データを活用するなど、子ども一人ひとりにきめ細やかな指導を行い、基礎学力の向上を図る

■ 中期的にめざす成果に対する達成度



- 全ての小中学校に必要となる特別支援教育支援員を配置し、通常学級における支援の充実を図る

■ R5年度において実施・実現できたこと

- ①支援員や介助員の配置効果 100%
- ②支援員によるあゆみファイルの活用 80%
- ③介助員によるあゆみファイルの活用 70%
- ④支援員や介助員の対応児童の変容 90%
- ⑤支援員や介助員の職員や保護者との連携 90%
- ⑥支援員（臨床心理士資格等の専門枠）の専門性を生かした発達検査等のアセスメント 50%

■ R5年度における達成度（当初の実施予定に対する達成度）



- 特別支援教育支援員及び介助員を経年で増加
R5 支援員…55人、介助員…9人

■ 主な「取組の進捗・成果を測る指標」の状況

測定有無	指標名	単位	基準値（年次）	目標値（年次）	R5年度実績値
○	配置効果調査における肯定的な回答割合	%			100%
○	平均配置人数	人			1.8人

【R5年度】重点目標の取組・評価シート②（特別支援教育支援員等の拡充）

■ R5年度において実施・実現できなかったこと

- 特別支援教育支援員（臨床心理士資格等の専門枠）
 - ・教員免許所有者の業務内容に加え、専門性を生かし、発達検査の実施、ケース会議への参加、保護者面談、教員の相談対応、校内研修講師等の仕事に携わっていただいている。これらの専門的な仕事の強化
- 特別支援教育支援員（臨床心理士資格等の専門枠）
 - ・配置に向けての学校体制や市としての体制の整備を行う。
- 特別支援教育支援員、介助員の個別の指導計画、あゆみファイルの活用を充実していく。



■ 課題分析

- 特別支援教育支援員（臨床心理士資格等の専門枠）
 - ・専門性についての校内周知と校内での活用方法を管理職通じて、一緒に考えていく必要がある。
 - ・学校での日々の活動の中で専門枠の方の活用の方法を全職員が理解し、活用を深めていく必要がある。
 - ・校内での専門枠の仕事にとどまらず、他校との連携を構築させていく。
- 特別支援教育支援員・介助員があゆみファイルを活用して、継続的な児童生徒の支援を行っていく。



■ ロジックモデルの振り返り

- ・令和5年度 各学校には、支援員、介助員の配置に対して教育的効果について各学校で指標と文章表記での記載を求めた。



■ 次年度以降の予定・改善内容

- ・令和6年度 同様に指標で示すことができるよう取組みを進めていく。